２０１２年１２月１７日
基発談６－№.００４

加盟組合・構成組織代表者　殿
県本部・県センター委員長　殿

日本基幹産業労働組合連合会
事務局長　工藤　智司

第４６回衆議院総選挙について

（事務局長談話）

２０１２年１２月１６日、第４６回衆議院総選挙の投開票が行われた。「組織内候補者髙木義明」は比例での当選を勝ち取ることができた。また、基幹労連推薦候補者１９２名中４７名、重点候補者２８名中１２名が当選した。

凄まじい逆風が吹き荒れる中、全国でこの間渾身の力をもって戦った加盟組合・構成組織、全県本部・県センターそして全ての地域、職場の仲間の努力に心より敬意を表する。

今回の選挙で民主党は「改革を前に進めよう！」と呼びかけてきたがその思いは十分には伝わらなかったことは残念である。２００９年の政権交代以降、民主党は１００年に一度と言われたリーマンショックからの回復に向け取り組み、また１０００年に一度と言われる東日本大震災からの復旧復興、壊滅的な社会保障制度の再構築、働く者の立場からの政策立案、１０００兆円を超える国の借金などに愚直に正面から立ち向かい、その解決に向け懸命に努力を続けてきた。

一方で多くの離党者を出したことや党内不一致等、政権のガバナンスに対して様々な課題が露呈された。

民主党が歴史的大敗を喫した事はまぎれも無い事実である。これからは、今回の結果を真摯に受け止め、早期に体制を整え、反省・分析し、党勢を速やかに立て直さなければならない。茨の道である。

一方、この３年３カ月間の野党の行動は極めて問題であった。すなわち「政策よりも政局」に重きをおき、日本の将来や国民の生活を無視し続けてきた。民主党は今後、決してこの愚を犯してはならない。正々堂々と「政局よりも政策」をもって行動する党であり続けなければならない。

我々が目指したのは政権交代可能な２大政党政治である。長きにわたる自民党を中心とした政治に終止符をうった意義は極めて大きかったと確信する。

今こそ基幹労連は次なる戦いに向け取り組みを加速する。

改めて全国の基幹労連の仲間の努力に感謝するとともに次の戦いに移った事を認識しあおう！

― 以　上 ―

＊本事務局長談話は 754 構成組織、企業連・単組本部、県本部・県センターへ発信しています。